

正味財産増減計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	(3,343,207)	(3,343,239)	(△ 32)
基本財産受取利息	3,343,207	3,343,239	△ 32
② 雑収益	(39)	(28)	(11)
受取利息	39	28	11
雑収益	0	0	0
経常収益計	3,343,246	3,343,267	△ 21
(2) 経常費用			
① 事業費	(3,713,615)	(2,990,840)	(722,775)
旅費交通費	0	0	0
通信運搬費	15,402	15,404	△ 2
減価償却費	74,600	134,455	△ 59,855
消耗品費	21,120	68,947	△ 47,827
什器備品費	0	0	0
保険料	0	0	0
諸謝金	0	0	0
支払助成金	627,671	578,687	48,984
委託費	2,970,000	2,186,205	783,795
雑費	4,822	7,142	△ 2,320
② 管理費	(85,586)	(141,115)	(△55,529)
会議費	0	58,564	△ 58,564
旅費交通費	0	4,910	△ 4,910
通信運搬費	77,526	65,809	11,717
減価償却費	0	0	0
消耗品費	962	4,554	△ 3,592
支払負担金	0	0	0
雑費	7,098	7,278	△ 180
経常費用計	3,799,201	3,131,955	667,246
当期経常増減額	△ 455,955	211,312	△ 667,267
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 固定資産受贈益			
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却損			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 455,955	211,312	△ 667,267
一般正味財産期首残高	3,009,908	2,798,596	211,312
一般正味財産期末残高	2,553,953	3,009,908	△ 455,955
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産評価益	(3,844,447)	(3,844,479)	(△ 32)
基本財産受取利息	3,343,207	3,343,239	△ 32
〃 (償却原価法による償却額)	501,240	501,240	0
② 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 3,343,207	△ 3,343,239	32
当期指定正味財産増減額	501,240	501,240	0
指定正味財産期首残高	241,807,609	241,306,369	501,240
指定正味財産期末残高	242,308,849	241,807,609	501,240
III 正味財産期末残高	244,862,802	244,817,517	45,285

財 産 目 録

(令和4年3月31日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)				
	預金	普通預金		
		ゆうちょ銀行	運転資金	445,978
		中国銀行県庁支店	"	1,677,819
		トマト銀行岡山県庁支店	"	433,842
		大和ネクスト銀行	"	24,035
流 動 資 産 合 計				2,581,674
(固定資産)				
基本財産	預金	普通預金		
		ゆうちょ銀行	共用財産であり、76%は、公益目的保有財産として、運用益を公益事業の財源として使用している。 24%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、運用益を管理業務の財源として使用している。	657
		定期預金		
		大和ネクスト銀行	共用財産であり、76%は、公益目的保有財産として、運用益を公益事業の財源として使用している。 24%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、運用益を管理業務の財源として使用している。	10,000,000
		ゆうちょ銀行	24%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、運用益を管理業務の財源として使用している。	397,000
		投資有価証券		
		第9回30年利付国債	共用財産であり、76%は、公益目的保有財産として、運用益を公益事業の財源として使用している。 24%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、運用益を管理業務の財源として使用している。	211,955,583
		第138回20年利付国債	24%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、運用益を管理業務の財源として使用している。	19,955,609
その他固定資産	什器備品	ノートパソコン（1台）	共用財産であり、20%は、公益目的保有財産として、公益事業で使用している。 80%は、公益目的事業に必要な法人管理活動の用に供する財産として、管理業務で使用している。	1
		ノートパソコン（1台）	公益目的保有財産として、公益事業(100%)で使用している。	86,753
		水質測定機器用ヒーター（1台）	公益目的保有財産として、公益事業で使用している。	14,400
固 定 資 産 合 計				242,410,003
資 産 合 計				244,991,677
(流動負債)				
未払金				128,875
流 動 負 債 合 計				128,875
(固定負債)				
固 定 負 債 合 計				0
負 債 合 計				128,875
正 味 財 産				244,862,802

## 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
償却原価法（定額法）によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準  
非計上につき未設定。

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,397,000	0	0	10,397,000
普通預金	657	0	0	657
投資有価証券	231,409,952	501,240	0	231,911,192
小 計	241,807,609	501,240	0	242,308,849
特定資産	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
合 計	241,807,609	501,240	0	242,308,849

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	当期末残高	(うち指定正味残高 からの充当額)	(うち一般正味残高 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
基本財産				
定期預金	10,397,000	(10,397,000)	(0)	(0)
普通預金	657	(657)	(0)	(0)
投資有価証券	231,911,192	(231,911,192)	(0)	(0)
小 計	242,308,849	(242,308,849)	(0)	(0)
特定資産	0	(0)	(0)	(0)
小 計	0	(0)	(0)	(0)
合 計	242,308,849	(242,308,849)	(0)	(0)

#### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ノートパソコン	74,801	74,800	1
ノートパソコン	160,160	73,407	86,753
水質測定機器用ヒーター	172,800	158,400	14,400
合 計	407,761	306,607	101,154

#### 5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
利付国債30年 (第9回)	211,955,583	243,615,030	31,659,447
利付国債20年 (第138回)	19,955,609	22,558,580	2,602,971
合 計	231,911,192	266,173,610	34,262,418

#### 6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息の振替額	3,343,207
合 計	3,343,207